

About:Creative Art Mix ~Classical Jewels~

本日は、ご来場誠にありがとうございます。おかげ様で、本公演チケットは、2023年11月をもって完売となりました。

当事業は、魅力ある新たなパフォーマンスアーツを創造・発信し、ご来場の皆様にお楽しみいただくのはもちろん、関わるアーティストやスタッフの制作能力の向上、そして地域の芸術文化を盛り上げていくことを目指し、hitaruがセルフプロデュースするものです。

前身となるCreative Opera Mixシリーズは、3年間にわたり公演を制作し、コロナ禍にも関わらず、クリエイティブスタジオでの公演は全公演が完売し、Vol.2公演では、来場者満足度100%を記録することができたほか、集大成となる3年目には2,302席を有するhitaruでの公演を成功させ、非常に好評いただきました。

様々な舞台芸術が集う複合文化施設としての場の特性を活かし、本シリーズは、昨年よりCreative Art Mixとして再スタートし、今後も多様なアートを融合させ、より魅力を高めたパフォーマンスアーツをクリエーションしてまいります。

本公演は、クラシックの名作を現代感覚のアレンジにより蘇らせ、一つ一つが輝きを放つ珠玉のようにクリエーションされた作品を集めたオムニバスライブです。

クラシックの名曲を小野健悟とDJ TAMA a.k.a. SPC FINESTによる多彩なアレンジと、クラシックバレエ、コンテンポラリーダンス、ストリートダンス、舞踏といった様々な舞踊により新たなパフォーマンスアーツを繰り広げます。

今回は札幌を中心に幅広く活躍する実力派ソプラノ歌手の倉岡陽都美を迎え、新たな表現に挑戦しますので、是非お楽しみいただければと思います。また「Classical Jewels」から想起し造作した電光ステージと、映像クリエーター モンマユウスケによる映像表現にもご注目下さい。

本日を迎えることが出来ましたのも、応援して下さいった皆様をはじめ、関係者の皆様のご尽力のおかげです。ここに深く謝意を表したいと思います。

今後も当事業を通じ、止揚による螺旋階段的発展によって、より質の高いパフォーマンスを実現し、次世代をプロデュースして参りたいと考えていますので、ご注目いただければ幸いです。

hitaru creation

Staff

● 作・編曲
小野健悟、DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST

● 振付
郷翠、西野留以、鈴木明倫、髪立ツカサ、YUKA、

仙庭弘晶、SHOKO

● 特別協力
宏瀬賢二 (Dance Studio mind(舞人)主宰)

● 映像
モンマユウスケ、Wajima

● 舞台監督
澤井裕樹 (北海道ステージアートアライアンス)

● 照明
戸高健司 (北海道ステージアートアライアンス)

● 音響
石井悠貴 (北海道ステージアートアライアンス)

● 技術監督
齋藤 玲 (札幌文化芸術劇場 hitaru)

● 宣伝美術
若林瑞沙 (Studio COPAIN)

● 宣伝写真
田邊 馨 (Studio COPAIN)

● プログラム作成協力(原曲解説・監修)
千葉潤 (札幌大谷大学学長)

● 配信本編撮影協力
橋本綾乃 (株式会社ウツワニウム)

Matthew Jones (株式会社ウツワニウム)
安達 真 (エイチシーピー映像株式会社)

● 配信特典撮影協力
WAKU

● スチール
定久圭吾 (doppietta)

● 制作
札幌市民交流プラザ 劇場事業課

● 企画プロデュース
高橋秀典 (札幌文化芸術劇場 hitaruチーフプロデューサー)

満席での上演を予定しております。

お荷物については膝上/座席下に収納していただくか、コインロッカー等をご利用いただき、隣の座席に置かないよう、ご協力をお願いします。

Program

第Ⅰ部

ベートーヴェン ピアノソナタ 第14番「月光」より第3楽章(1801年作曲) ROCK arrange

ベートーヴェン三大ピアノソナタの一つ「月光」から、激情的な旋律の第3楽章を新感覚なロックアレンジを施して「Creative Art Mix Vol.2」のオープニングを飾ります。髪立ツカサによる舞踏とのコラボレーションで未知の世界へと誘う1曲です。(編曲:DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST)

「悲愴」や「熱情」と並ぶ、ベートーヴェンの三大ピアノソナタの一つ。詩人ルートヴィヒ・レルシュタープが第1楽章を「スイスの湖の月光にきらめく波間に漂う小舟のようだ」と形容したことから「月光ソナタ」という通称で知られている。対照的に第3楽章では、激しく荒れ狂うような音楽が展開される。

ラヴェル 「ボレロ」(1928年作曲) TECHNO arrange

モーリス・ラヴェルが作曲したバレエ音楽「ボレロ」。同じリズムが繰り返されるシンプルさが魅力の原曲をサンプリングしてお贈りいたします。鈴木明倫によるダンスとのコラボレーションにより創り上げる革新的な「ボレロ」は必見です。(編曲:DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST)

フランスの作曲家モーリス・ラヴェルが、バレリーナのイダ・ルビンシテインの委嘱を受けて作曲したバレエ音楽だが、管弦楽の名曲としても有名。スペインの民族舞のリズムにのって2つの主題を反復しながら、独奏からオーケストラ全体へと壮大なクレッシェンドを作り上げる。ストーリーは、スペインの酒場で踊り子が舞い始めると、最初は無関心だった客たちが次第に惹きつけられ、最後は全員が恍惚として踊りに興じる、というもの。

ラフマニノフ 「ヴォカリーズ」(1915年作曲) R&B / SOUL arrange

ラフマニノフの作品の中でも特に人気のある「ヴォカリーズ」を倉岡陽都美の歌唱と共に演奏いたします。「ヴォカリーズ」とは母音のみで歌う歌詞のない歌唱法のこと。美しい歌唱とそれを支えるピアノを中心としたバンドにもご注目ください。(編曲:小野健悟)

20世紀を代表するピアニスト・作曲家として知られるラフマニノフだが、実は多くの歌曲も創作している。「ヴォカリーズ」とは母音のみで歌う歌詞のない歌唱法をさし、ラフマニノフによる「ヴォカリーズ」は、その憂いにみちた美しい旋律によって彼の作品でも特に人気が高い。

チャイコフスキー バレエ『白鳥の湖』メドレー(1877年作曲) FUSION / CLASSICAL / ROCK arrange

2023年3月に開催した「Creative Art Mix～RE:BORN～」の「SWAN LAKE BEYOND」をベースに、新たな構成・編曲によりメドレー形式でお贈りします。多様なジャンルのダンサーが出演する、ダイナミックで新感覚な「白鳥の湖」の世界をお楽しみください。(編曲:小野健悟)

モスクワ・ボリショイ劇場からの依頼で作曲された「白鳥の湖」は、「チャイコフスキー三大バレエ」の一つで古典バレエの名作として知られる。なかでもハーブのアルペジオにのってオーボエが物悲しい旋律を奏でる「情景」は、バレエ全体の象徴として作中で繰り返し使用される。

モーツァルト オペラ『フィガロの結婚』より「楽しい思い出はどこへ」(1786年作曲) ELECTRO / JAZZ arrange

オペラ『フィガロの結婚』で歌われる美しいアリア「楽しい思い出はどこへ」。フィガロの婚約者スザンナを口説く伯爵を懲らしめるために計画を練る伯爵夫人による悲しみと決意のアリアを、hitaruオペラプロジェクト「フィガロの結婚」(2023年2月)で伯爵夫人を務めた倉岡陽都美と、Creative Art Mixバンドメンバーでお届けします。(編曲:小野健悟)

オペラの傑作として名高い「フィガロの結婚」は、伯爵の浮気を、伯爵夫人や召使いフィガロと小間使いのスザンナらが懲らしめるストーリー。伯爵夫人のアリア「楽しい思い出はどこへ」は、夫との過去の幸せな思い出と現在の嘆かわしい境遇を歌う前半から、何とか愛を取り戻そうという希望に満ちた後半へと変わっていく。

ホルスト 組曲『惑星』より「木星」(1914-16年作曲) JAZZ arrange

2023年3月「Creative Art Mix～RE:BORN～」で好評を博した、バレエとコンテンポラリーダンスのコラボレーションによりお贈りするホルスト「木星」を、今年から新しくなったバンドメンバーと共に、新編でダイナミックに再び創り上げます。(編曲:小野健悟)

7つの惑星に因んだ管弦楽組曲だが、作曲家ホルストが占星術にインスピレーションを受けて作曲したため、それぞれの楽曲には占星術とローマ神話に因んだ課題が付けられている。「木星」の課題は“快楽をもたらすもの”で、中間部は平原緩香のデビュー曲としてもよく知られている。

第Ⅱ部

レオンカヴァッロ オペラ『道化師』より「衣装をつけれ」(1892年作曲) METAL arrange

ヴェリズモ・オペラの名作『道化師』から「衣装をつけれ」。オペラではテノール歌手によってエモーショナルに歌われる愛と憎しみのアリアですが、今回はMETAL (ROCKアレンジ)で、ソプラノ歌手 倉岡陽都美が感情豊かに歌い上げます。(編曲:小野健悟)

『道化師』は、旅芸人の一座で道化を演じる座長カニオが、妻の浮気により嫉妬に狂う物語。作中で演じられる道化劇(劇中劇)がカニオを取り巻く現実をなぞるように展開し、最後は錯乱したカニオが妻を殺害してしまう。作品を代表するアリア「衣装をつけれ」は、嫉妬や怒りを隠して道化を演じなければいけない悲しみを張り裂けるように歌う。

チャイコフスキー バレエ『くるみ割り人形』メドレー(ロシアの踊り/花のワルツ 他) (1892年作曲) TECHNO / JAZZ arrange

バレエ『くるみ割り人形』の楽曲をメドレー形式でお贈りします。編曲はDJ TAMA a.k.a. SPC FINESTと小野健悟の二人で手掛け、またバレエとストリートダンスのコラボレーションにより、世界中で愛されるバレエを新たなアプローチで新鮮に表現します。(編曲:ロシアの踊り/DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST、花のワルツ/小野健悟)

チャイコフスキー最後のバレエ音楽「くるみ割り人形」は、クリスマスの風物詩として世界各国で上演され続ける名作。主人公クララとくるみ割り人形の冒険を描く物語で、第2幕のお菓子の国のシーンでは、クララをもてなすためにお菓子が因んだ世界各国の踊りが披露される。「ロシアの踊り」は農民が踊るトレパックの力強い踊り。「花のワルツ」はクララとくるみ割り人形を祝福する踊りで、優雅なワルツが奏でられる。

オッフェンバック オペレッタ『天国と地獄』より序曲(1858年作曲) HIP HOP arrange

前シリーズ「Creative Opera Mix」で演奏したDJ TAMA a.k.a. SPC FINEST編曲のオッフェンバックの オペレッタ『天国と地獄』序曲を、壮大でありながら軽快な曲調はそのままだに新アレンジでお届けします。鈴木明倫と髪立ツカサによるダンスのコラボレーションもお見逃しなく。(編曲:DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST)

『天国と地獄』は、古代ギリシャの「オルフェウス神話」に基づくグルックの古典オペラの舞台を19世紀パリに移し、経済発展により享楽生活におぼれ、建前と本音を使い分ける富裕層を痛快に風刺したオペレッタ。なかでも「序曲」は運動会の楽曲としてもよく知られているが、実際には他の作曲家が劇中のナンバーを選んで編曲したもの。

ドリーブ オペラ『ラクメ』より「花の二重唱」(1883年作曲) POP arrange

ドリーブのオペラ『ラクメ』から、原曲ではソプラノとメゾソプラノの二重唱で歌われる気品ある美しいメロディで人気の「花の二重唱」を、今回は倉岡陽都美の歌唱によりお届けします。バレエ『コッペリア』の音楽でも知られるフランスの作曲家ドリーブによるこのオペラは上演回数こそ少ないものの、「花の二重唱」はコンサートなどでも演奏される人気曲です。(編曲:小野健悟)

レオ・ドリーブは、ロマンティック・バレエの傑作「コッペリア」でも有名なフランスの作曲家。オペラ『ラクメ』は、19世紀インドを舞台に、イギリス軍人とインド高僧の娘ラクメの恋愛悲劇を描く。二人の女声のハーモニーが印象的な「花の二重唱」は、小舟に乗ったラクメと侍女マリカが運の花を摘みに行くシーンで歌われる。

ショパン 「革命のエチュード」(1831年作曲) ROCK arrange

2023年3月に開催した「Creative Art Mix～RE:BORN～」よりショパン「革命のエチュード」を演奏します。ROCKアレンジを施した疾走感のある旋律に、ダンススタジオマインドのダンスが融合して、エネルギッシュなナンバーを創り上げます。(編曲:DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST)

祖国ポーランドの民衆が帝政ロシアに対して武装蜂起した際、国外にいたため戦いに参加できなかったショパンが怒りの感情をぶつけて作曲されたといわれるピアノ曲で、友人であるフランツ・リストに献呈された。「革命」というタイトルリストが付けたと伝えられる。

メドレー ●ショパン「幻想即興曲」(1835年作曲) ●モーツァルト ピアノソナタ 第11番「トルコ行進曲」(1783年頃) ●ヴィヴァルディ ヴェイオリン協奏曲「四季」より冬(作曲年不明) ●パッヘルベル「カノン」(作曲年不明) CLUB JAZZ arrange

ショパン、モーツァルト、ヴィヴァルディ、パッヘルベルの名曲を、小野健悟によるCLUB JAZZアレンジのメドレーでお贈りします。バンドのみのナンバーとして、それぞれの楽器の見せ場やテクニクにご注目ください。(編曲:小野健悟)

●ショパン「幻想即興曲」…作曲家の没後に出版されたピアノ曲で、激しい情熱とショパンらしいロマンティックな詩情性をあわせもつ名曲として親しまれている。
●モーツァルト「トルコ行進曲」…トルコの軍楽を模した行進曲で、18世紀ウィーンなどで盛んにつくられた。その中でも特に有名なモーツァルトの「トルコ行進曲」は、ピアノソナタ 第11番の第3楽章にあたるが、単独で演奏される機会も多く、様々な番組・CMにも使用されている。
●ヴィヴァルディ「四季」…ヴァイオリン協奏曲集「和声と創意の試み」のうち、通称「春」「夏」「秋」「冬」と呼ばれる4曲を「四季」と称する。各曲には風景を描写するソネット(詩)が付されており、「冬」は歯が震えるほど寒い冬の情景を描写する第1楽章、第2楽章の温かい部屋での時間、春の匂いが漂う第3楽章から構成される。
●パッヘルベル「カノン」…同じ旋律がずれながら重なっていく楽曲形式「カノン」のなかでも最も有名な作品の一つとして挙げられる。パッヘルベルはドイツにおけるバハ以前の最も優れた作曲家の一人とされ、本曲はそのまま「パッヘルベルのカノン」として親しまれている。

ベートーヴェン 交響曲第9番「合唱付き」より 第4楽章(1824年作曲) R&B / SOUL arrange

「第九」の愛称で知られ、日本では年末の風物詩として全国で演奏されるこの曲にR&B/SOULアレンジを施してお届けします。出演ダンサー全員が登場し、「Creative Art Mix Vol.2」のラストパートを盛り上げます。(編曲:小野健悟)

音楽の革命家として知られるベートーヴェンだが、4人の独唱と合唱が参加する「第九」の第4楽章は、交響曲に声楽を用いたこと自体異例のことで、ベートーヴェンの芸術的極致を示すとともに、ベートーヴェンの最後の交響曲でもある。合唱にはシラーの詩「歓喜に寄す」が用いられ、主題は「歓喜の歌」としても知られる。

ドヴォルジャーク 交響曲第9番「新世界より」より 第4楽章(1893年作曲) METAL arrange

「Creative Art Mix Vol.2」グランドフィナーレとして、「新世界より」第4楽章をMETALアレンジによりお届けします。ドヴォルジャークがアメリカ滞在中に故郷チェコを想って作曲した、数あるクラシック音楽の中でも特に有名な作品のひとつです。本作のラストを飾る大迫力のナンバーをお楽しみください。(編曲:DJ TAMA a.k.a. SPC FINEST)

チェコの作曲家ドヴォルジャークが、当時はまだ「新世界」だったアメリカ滞在中に作曲し、黒人霊歌やアメリカ先住民の歌が素材として使われていることから、アメリカ国民音楽の先駆的作品といわれる。日本ではベートーヴェン「運命」、シューベルト「未完成」と共に三大交響曲として親しまれている。